

## 富士市防犯まちづくり講演会（講演概要）

### ○防犯ボランティアが必要な理由

- ・防犯ボランティアは、まさに地域の安全の底力。皆さんは、胸を張っていただきたい。
- ・子どもが一人になりやすいため、見守りが不可欠。そのためにも、あいさつは重要。

### ○海外と日本の違い

- ・身を守る上で、自己責任の強弱によって考え方も大きく異なる。
- ・とくに欧米では自己責任を強く意識するため、子どもはいかなる場合も保護者が守るべきという考え方が強い。小学生ぐらいの子どもを一人の状況にするだけでも虐待や育児放棄とみなされるケースがある。大抵、保護者が学校への送迎を行い、スクールバスの場合では家の前で出迎えをする。
- ・日本は、「みんなで守る」の意識が強く、自己責任だけに押し付けない。子どもの安全についても、保護者のみならず、教育委員会、自治体、警察、そして地域全体で見守る雰囲気がある。まさに「地域で育てる」意識が残る中で、子どもたちは小学校入学時から一人歩きをする機会が多い。  
もともと子どもが一人になりやすい環境がある中で、昨今、家族構成や保護者の働き方などにより、ますます子どものだけの状況が加速している。学童クラブの利用人数も過去最多。

### ○防犯ボランティアの効果とは

- ・犯罪は、いつどこで起こるか分からない。子どもの被害もなくなる。特効薬がない。「聖域なき防犯対策」の必要性があると感じている。
- ・一般市民による防犯に期待できる効果とは、①犯罪が起きにくい環境づくり：防犯ボランティアが姿を見せることで「犯罪がしにくい」雰囲気を生み出す。自然監視性ともいう。とくに「警察に捕まりたくない」意識をもつタイプの犯罪原因を抱えた者に対して有効。②助け合いの環境づくり：子どもが万が一のときに「助けて！」といえる環境づくり。日々のあいさつは、助けての練習にもなっている。

### ○3つの力で見守りパワーアップ！

- ・子どものちから（子ども自身が身を守る力）、大人のちから（子どもを守る力、子どもの力を伸ばす力）、地域のちから（ボランティアなどによる力）が不可欠。
- ・3つの力を連携することも重要。そして、子ども、保護者、先生と関わることができ、地域ともコラボレーションできる、いずれにも関係の深いのはPTA。社会的意義が大きく、貴重な存在。

### ○一般市民ができる防犯は「見守り」

- 警察による防犯は、「直接的な防犯」ともいえるもので、非行や犯罪と対峙して対処する。ちなみに、「犯罪抑止」という言葉には、力の行使を含むため、本来は市民防犯ではできない範囲を含む。
- 一方、一般市民ができる防犯（市民防犯）は、子どもたちや地域に目を向けて、見守りを行う。「間接的な防犯」ともいえるもので、「犯罪が起きにくい環境をつくる」が目的となる。そのため、あいさつ・笑顔が欠かせない。
- ・非行防止パトロールなどではとくに注意が必要。中高生に対して厳しすぎる声かけは、暴力とみなされる場合や、動画で撮影されて批判されるリスクもある。あくまでも見守りの姿勢を忘れずに、あいさつや会話とともに「何かあったら声をかけてね」という声かけがベスト。「見ている」（強さ）と同時に、「困ったら助けるよ」（優しさ）の意思表示ができる。
  - ・犯罪を見つけた場合など、一般市民として対処が困難な場合は、速やかに警察に通報・連絡する。

### ○見守りを効果的に行うには

- ・姿を見せることで、「犯罪が起きにくい環境づくり」と「助け合い」を生み出す。
- ・立ち位置が重要、まわりから「よく見える」ところに立つこと（自然監視性を高める）。
- ・自分を守り、仲間を守り、見守りがしやすく、まわりから見えるところを探してみる。
- ・とくに背後に隙が生まれないように、構造物等の前に立つなどして自らの隙をなくすこと。
- ・青パト車によるパトロールでは、①運転免許証の確認、②安全運転・思いやり運転、③活動の広報周知がポイントとなる。

### ○防犯ボランティアの効果

- 1 予防：自然監視性を高める。犯罪が起きにくい環境を作る。
- 2 意識：啓発や声かけなどで、一人ひとりの安全意識を高める。
- 3 連携：関係機関や地域の連携やつながりが増える。  
警察・自治体は情報がなければ動けない（情報があれば動くことができる）。  
情報提供は大事だが、気を付けないとクレームになることも。  
健全な協働のためには、お互いができること、できないことを把握してから協力する。
- 4 安心：地域住民や子ども達の安心感が育まれる。  
誰かが見ていることで広がる安心の輪。過度な防犯は、不安感を与える場合も。  
人による防犯が一番。あいさつ・笑顔、人に勝る防犯はない。  
防犯カメラは、あくまでも人の防犯を補完するものとなる。

### ○突発的な暴力（通り魔など）から身を守る

川崎市で発生した通り魔事件では、子どもが狙われる犯罪とともに、無差別に人を狙ったテロもいえる重大犯罪。子どもが狙われやすい犯罪の場合は、見守りの効果も期待できるが、通り魔のような犯罪の場合は、一人ひとりの身を守る行動が欠かせない。

- ・日本でもリスクの高まっているテロなどの人為災害（突破的な暴力）がもし発生したら、自分で自分の身を守る意識が重要。
- ・「自助（自分を守る）」とともに「近助（たまたま近くにいる人同士の助け合い）」が欠かせない。  
自分自身でできることとしては、心がまえを持つことと、想定すること。
- ・重要なことは、「すぐに」行動すること。すぐに察知する（おかしい、危険かもしれない、危ないの判断）、すぐに逃げる（自分の判断で）、すぐに伝える（まずは警察へ通報）
- ・もし危険を察知した場合は、逃げる、近づかない、距離を保つ。周囲へも危険を知らせる。
- ・目の前に危険が迫ってしまった場合は、①防護する：楯を持って身を守る。身のまわりですぐに手が届き、防護に役立つような物を確認しておく。②抵抗する：防護できない場合は、あらゆる方法で抵抗する。その場合、なるべく素手では抵抗しない。上着、カバン、ベルト等、身近なもので致命傷を負わないように抵抗する。あくまで命を守るための抵抗であって、過剰な暴力を容認するものであってはならない。

### ○あいさつの重要性

- ・今、犯罪不安のスパイラルが広がり、保護者の間で「あいさつしない…」意見が増えている。
- ・あいさつがなくなると、善意ある人の見守りが弱まる。あいさつは、見守り、助け合いの基礎。
- ・重要なことは、見守りの側が、あいさつをやめないこと。子どもがしなくてもあいさつをする。

○見守りで注意すべきこと

- ・子どもと過度な接触はしない。
- ・子どもに飲食物をあげない。
- ・自ら招いて子どもを私有地や車に入れない。

○子どもたちに届くメッセージ

- ・見守りは、安全・安心のみならず、子どもの心の成長へ大きな影響を与える活動。
- ・今まで見守られていた子ども達が成長し、学生防犯ボランティアが広がっている。さらに学生ボランティアが社会人、保護者世代となりつつある。見守り文化の定着が進む。あいさつの種まきで、次世代の見守りの花を咲かせよう！

○子どもへの防犯指導のポイント

- ・まずは、子どもを一人にしない環境づくり。子どもも大人も意識する。
- ・観察力：周りを見る能力を高める。「だるまさんが転んだ！」で、横や後ろを見る練習ができる。
- ・距離感：あいさつは必要だが距離感を保つ。触られない、捕まらない距離を実際に確認しよう。
- ・心の距離感：心理的距離を保ち、悪意ある者に心をコントロールされない。断る力が必要。
- ・逃げる：まずは逃げこめる場所を知ること。子どもの目線で探してみよう。
- ・防犯ブザー：知らせる、逃げるを助けてくれる道具。すぐに手に取れ、落としても壊れない丈夫な物を。